

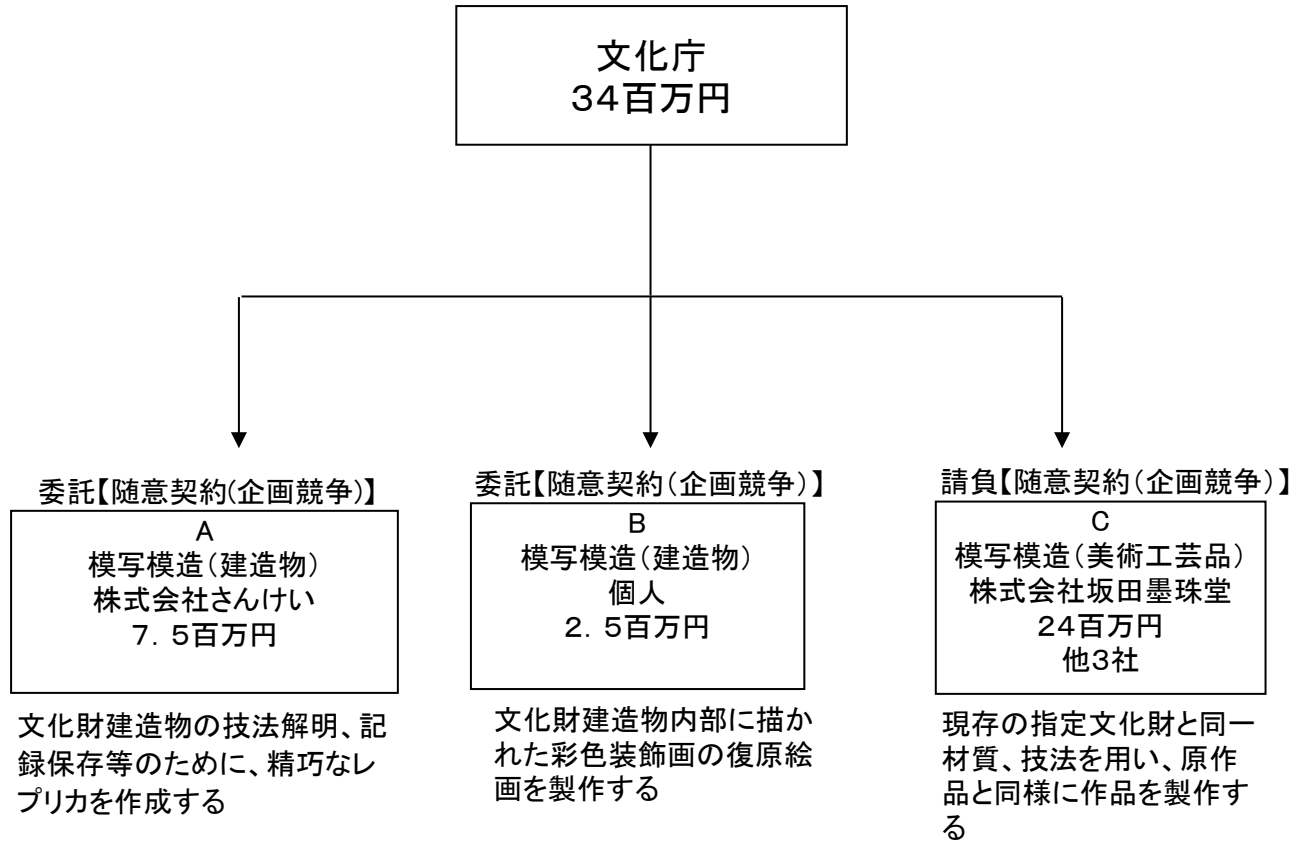
	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)	
事業名	模写模造			担当部局庁	文化庁		作成責任者
事業開始年度	昭和28年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	文化資源活用課		文化財第一課長 三輪 善英 文化資源活用課長 齋藤憲一郎
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	文化財保護法 第1条			関係する 計画、通知等	文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針) (平成27年5月22日閣議決定)		
政策	12 文化芸術の振興			主要経費	その他の事項経費		
施策	12-1 文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/202111224-mxt_kanseisk02-000019646_12-1.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	本事業は、現存の文化財(美術工芸品、建造物)と同一の材質、技法を用いて原作品と同様に製作し、伝統的技法の解明及び維持を図るとともに、製作した作品を公開しその活用を図ることを目的とする。文化財が劣化する以前の模写模造作品を製作・公開活用することで、その価値と固有性の正確な理解を促進する。また模写模造品の製作にあたっては、文化財の保存に欠くことのできない伝統的な技術・技能である選定保存技術を積極的に用い、その過程を動画にまとめることで、修理や修理を支える技術、用具、原材料などの重要性の普及啓発に役立てる。						
現状・課題 (5行程度以内)	鮮やかな姿を維持することが困難な建造物の彩色絵画の模写、全体像の把握が困難な複雑な構造を持つ建造物の模造を製作し、積極的に活用することで歴史的建造物に対する国民の理解の促進に資することを目的とする。近年、文化財建造物の所有者の高齢化や担い手不足などにより、建造物彩色の経年劣化が進行する事例が増えているため、貴重な彩色の模写製作を進める必要がある。製作された模写模造作品については、国立博物館等で公開が行われている。建造物模造については、2021年に東京国立博物館において「日本のたてもの」展を開催し、本事業の成果物を多数展示して好評を得たことから同様の企画展の継続的開催が望まれる。また、美術工芸品の模写模造においては、現状をありのままに写し取る記録保存としての意義の他、制作当時の姿を復原しようという動き、さらには、模写模造品の製作工程を通じて、制作当時の姿や使われている素材、手法の新発見につながることで、及び現存する有形文化財に対する修理技法の復原や新たな技術が生み出されるなどの成果も上がっており、これら成果の広報、普及啓発を進めていく必要がある。						
事業概要 (5行程度以内)	国宝・重要文化財(美術工芸品)が、経年劣化等により適切な保存や取扱い及び移動等が困難であり、その他管理上の理由により公開を制限するものについて、文化財として固有の価値を可能な限り忠実に表現した模写・模造品を製作し指定品の保存を図り、さらに製作した作品は指定文化財に代えて公開し、その活用を図っている。また、文化財(建造物)を縮尺模型により全体像の把握を容易にするなど、文化財としての固有の価値を可能な限り忠実に表現した模写模造を製作し、公開活用を図ることで指定品の保存及び文化財理解を進める。						
事業概要URL	-						
実施方法	委託・請負、その他						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	35.1	35.1	34.6	36.1	36.1
		補正予算(B)	-	-	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
	予備費等(E)	-	-	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	35.1	35.1	34.6	36.1	36.1	
	執行額(G)		14.9	14.6	34.5		
	執行率(%) =(G)/(F)		42%	42%	100%		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		42%	42%	100%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	文化財保存事業費			※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。		
	(目)	国宝其他模写模造費	36	36			
		諸謝金		0.1			
		職員旅費		0.1			
		その他	0	0			
	計(A)		36.1	36.1			

活動内容① (アクティビティ)		模写模造品の製作を通じて、伝統技法の解明、維持を図る。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		文化財の模写模造の件数増加	模写模造件数／年	活動実績	件	1	1	2	－	－
				当初見込み	件	1	1	2	2	1
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	文化財建造物には、内外に極彩色による装飾を施して荘厳しているものが多い。その図柄や技法は、時代や類型などにより多様な発展を遂げてきたが、経年劣化などにより保存が危ぶまれる物件も増えている。模写製作は選定保存術者によって行われ、その技術や知見について周知を図ることで、技術の継承を図る。また模造製作は文化財建造物の建物全体におよぶ修理工事を行う際に、その工事から得られる知見を取り入れながら精密な模型を製作するものである。建造物の全体像や内部構造などを現地で一望することは困難であるが、模型はそれを可能にする。模型の製作現場を公開することで、技術の継承を図る。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		現存の文化財と同質の材質、技法を用いて製作する模写模造品の製作過程を普及啓発することで技術の伝承を図る。	制作過程における模型製作現場の内覧会、講習会等の実施率	成果実績	%	－	－	50	100	
				目標値	%	－	－	100	100	
				達成度	%	－	－	50	100	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		委託事業者への聞き取り								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	建造物彩色の場合、特に社寺建造物の内部で良好に保存されている事例が多いが、建具の開放や不特定多数の人の出入りによる保存への影響が懸念される。そこで、模写を製作して公開を図ることは、建物類型や年代により多様化し、発展した彩色の価値を理解するうえで意義が深い。建造物模造については、国立博物館等で成果物を展示し普及啓発を行っている。文化財の模写模造件数の増加を図り、模写模造作品を公開活用する機会を増やす。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度	
		経年劣化等が進み、公開が困難な文化財について、固有の価値を再現した模写模造を製作し、積極的に公開することで活用を図る。	成果物の一般公開(貸与等を含む)件数割合 成果物を一般公開した件数／模写模造件数	成果実績	%	97	97	97	－	
				目標値	%	100	100	100	－	
				達成度	%	97	97	97	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		博物館等における成果物の一般公開件数(博物館等に照会・集計)								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

活動内容② (アクティビティ)		模写模造品の製作を通じて、修理や修理を支える技術、用具、原材料などの重要性の普及啓発に役立てる。									
↓											
活動目標及び活動実績② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		文化財の模写模造の件数増加	模写模造件数／年	活動実績	件	3	3	2	－	－	
				当初見込み	件	4	4	4	3	－	
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	模写模造品の製作工程を通じて、制作当時の姿や使われている素材、手法などを発見、研究する。									
成果目標及び成果実績②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度		
		模写模造品の製作工程を通じて、制作 当時の姿や使われている素材、手法な どを発見、研究する。	明らかとなった事実や技術の 件数	成果実績	件	－	－	8			
				目標値	件	－	－	5	15		
				達成度	%	－	－	160			
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		事業の実績報告書									
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	得られた新発見を通じて、更なる修理を実施する。									
成果目標及び成果実績②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 10 年度		
		得られた素材、技術等を用いて復原、 修理された文化財の件数	文化財の修理件数	成果実績	件	－	－	－			
				目標値	件	－	－	－	50		
				達成度	%	－	－	－			
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		修理工房、都道府県市町村の文化財課、博物館等から情報提供のあったもの									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由									
		－									
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由									
		－									
		－									
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等	名称	－									
	URL	－									
	該当箇所	－									

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)



費目・使途 (「資金の流れ」において ブロックごとに最大の金額 が支出されている者につ いて記載する。費目と 使途の双方で実情が分 かるように記載)	A.			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	事業費	製作費、製作図作成費、木工事費	6.9	調査費	賃金、交通費、宿泊費	0.6
	一般管理費		0.5	製作費	賃金、資材費	1.9
	人件費		0.1			
	計		7.5	計		2.5
	C.			D.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	事業費	雑役務費、借損料、旅費	9			
	人件費		3			
	一般管理費		0.3			
	計		12.3	計		
	費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載				チェック	

